島根県議会議員

坪内　涼二

県議会レポート VOL. 35

令和5年10月号

ごあいさつ

10月5日、10月定例会が閉会しました。今議会は27名の議員が質問に立ち、少子化対策やコロナ禍が終息に向かうなかの観光戦略等、多岐にわたる質問がありました。

常任委員会や特別委員会でも様々な議論が展開され、委員長を務める防災地域建設委員会では、島根原発1号機廃止措置計画の変更について中国電力から関係者を招請し審査を行ったほか、中山間地域の生活交通やバス事業者の担い手の状況について報告があり、活発な質疑が行われました。また、私が所属する地方創生・行財政改革調査特別委員会では、島根創生計画のこれまでの主な成果と今後の方向性についてが議題となり、私からはこのままいくと石見・隠岐地域は危機的な状況になると指摘し、各施策において圏域を意識した施策展開を行ってほしいと求めました。

９月定例会ではこんなことが決まりました

- **令和５年度一般会計補正予算（第４号）**
  新型コロナ感染症の相談体制の確保するため1億2,500万円を計上
- **令和５年度一般会計補正予算（第５号）**
  物価高騰対策や大雨被害対策などに対応するため総額180億円を計上
- **未来志向の日韓関係構築に関する意見書**
  政府の責任において慰安婦問題に係る見解を明確に示すことを求めるもの
- **防災・減災、国土強靭化を含む社会資本整備の推進を求める意見書**
  社会資本整備に必要な予算の確保を求めるもの

エネルギー価格・物価高騰対策のための補正予算が可決されました

事業名	金額	事業内容
エネルギーコスト削減緊急支援	2億5,000万円	飲食・商業・サービス業等の事業者が取り組むエネルギーコスト削減効果の高い設備投資等を支援するもの
公共事業	26億5,790万円	大雨被害対策（約24億円）、松江市街地における除雪対策（1億8,300万円）
農林大学校実習環境整備	2,435万円	入学者増加への対応、実習環境向上のため、林業科に必要な機器等を整備
冬季観光需要喚起	2,300万円	観光需要が落ち込む冬季閑散期における旅行商品の造成、販売を支援するもの
県庁舎等の整備	1,954万円	令和12年度実施の国スポ・全スポの開催準備に必要となる分庁舎を整備
県議会資料のデジタル化	2,136万円	県議会のペーパーレス化推進のため、必要となる機器等を整備するもの
県債の繰上償還・基金積立等	149億5,600万円	決算剰余金活用による基金復元（5億円）、国スポ基金積立（18億円）、県債繰上償還（126億円）

一般質問を行いました

動画はこちら

9月定例会では、5項目の質問を行いました。江津地域の県立高校再編については、6月定例会に引き続いての質問となりました。学校関係者への説明会や地域説明会で出された意見を知事や教育長に投げかけました。しまね海洋館アクアスについては、7月に行った常任委員会調査にて、アクアスが石見地域や島根県にとって重要な施設であることを再認識することができました。さらなる魅力アップによる地域への様々な効果の波及を願い質問を行いました。

江津地域の県立高校の在り方について

県が掲げる望ましい教育環境とは具体的に何を指すのか。

知事：一定の学校規模が確保できれば、教員配置の充実により、手厚い指導や子どもの学びたい科目が開設できる等、学習の充実や選択肢の広がりにつながり、進路志望の実現可能性が高まる。また、学校行事や部活動等により、互いに切磋琢磨する機会が増え、社会性、自主性等を身につけることにもつながる。

中山間地域、離島では、地元の中学校を卒業した生徒が、自宅から通える学校がないということが生じないことを優先し、高校を維持をしている。市エリアにおいて、中山間地域、離島と同じような対応が最適であるかどうかについて、教育委員会において、検討をしてもらいたいと考えている。

基本的方針案では、普通科系1学級40人、工業系2学級80人定員として検討しているが、普通科、工業科ともに2学級を求める声があるが、所見を伺う。また近年の入学者数や充足率をみると江津工業高を志望する生徒が減少しており、工業教育の魅力化・特色化が必要ではないか。

教育長：普通科系を増やすべきとの意見や要望をいただいており、基本的方針案にこだわることなく、普通科系のコース設定や人数について、審議会の意見なども伺う。

地元の経済界からは、建築、土木の資格を持った人材を必要としているという意見を伺っている。基本的方針案にこだわることなく、工業科のさらなる充実、特色化のために、地域や子どもたちのニーズを踏まえ、検討していく。

年内を目途とされる方針決定に向け、より丁寧に地域等の意見を聴き対応してほしいが所見を伺う。

教育長：説明会等でいただいた意見は、対応案や考えを整理した資料を作成し、次の説明会等で配布することで議論の重複を避けたり、より深い議論ができるようしてきた。

現在は、有識者で構成される総合教育審議会で、地域の関係者に対する意見聴取を行うなどしている。今後は、これまでいただいてきた関係者や住民、地元産業界からの意見、総合教育審議会での議論を踏まえ、基本的な方針案にこだわることなく検討し、必要であれば修正した上で、パブリックコメントなど何らかの形で広く意見をいただく機会を持ちたいと考えている。

しまね海洋館アクアスの魅力アップについて

シロイルカの海外からの輸入が厳しくなるなか、館内での繁殖や国内のシロイルカ飼育施設とのブリーディングローン等による繁殖について所見を伺う。

地域振興部長：国内のシロイルカは、現在アクアスを含む4施設で、雄8頭、雌13頭の合計21頭が飼育されている。飼育施設同士で動物を相互に貸出しあるいは借入れする契約、いわゆるブリーディングローンについてシロイルカの繁殖実績はまだない。

まずは、今後もアクアス内での繁殖に取り組んでいくとともに、ブリーディングローンも視野に入れながら国内の他の飼育施設との関係をこれまで以上に強化していく必要があると考える。

現在、アクアスではにぎわい創出や雇用創出につながる地域連携の取組を進めているが今後の展開は。

地域振興部長：アクアスは県西部における大規模集客施設として、その強みを生かし、これまでもにぎわいの創出や飲食店の出店による地元食材の販路拡大など、地域の活力につながるよう取り組んできた。

地元自治体と連携し、シニア世代を対象とした健康増進のためのコンテンツを開発中で、管内にウオーキングコースを設定し、高齢者が楽しみながら館内歩きを実施する企画を検討している。県としては、アクアスを拠点として地域の活性化につながる取組が進むよう、市町村や関係団体に促していく。

県内公立学校の教育活動でのアクアスの積極的利用を求めるが所見を伺う。

教育長：博物館相当施設として指定されている社会教育施設であるアクアスは、児童生徒にとって貴重な学習の場であり、教科書や映像だけでは得られないリアルな体験を通じて、海洋環境や生態系等について理解を深めることができる重要な施設である。特定の施設のみの利用を斡旋することはできないが、学校は理科や社会、遠足や職場体験など様々な教育活動で活用している。学校のニーズにアクアスが対応しており、アクアスが貴重な学びの場として効果的に利用されるように工夫していく。

島根県議会議員　坪内涼二事務所
〒695-0016　島根県江津市嘉久志町イ1229-8
TEL:0855-52-7511／FAX:0855-52-7510

活動報告など情報発信中！

ホームページ　LINE　facebook